



〈第 55 回羽工祭〉



第 53 号
羽工工業高等学校
2018年3月2日



「明るい大きな声で
気持ちの良い挨拶」

PTA会長 谷本 千春

PTA会員の皆様におかれましては、日頃よりご理解とご協力を賜り、深くお礼申し上げます。この一年、学校長をはじめ、教職員、OB・OG、関係者の皆様のお力添えを頂き、多くの行事や活動を無事進めることが出来たことに感謝申し上げます。

卒業を迎える皆さんにとって、羽工工業での生活は有意義なものになったでしょうか。大切な友達との出

会い、信頼できる先生との出会い、勉強、部活動、工業高校ならではの専門的な実習、資格などたくさんの方に挑戦し努力してきたこととあります。大切な三年間の楽しい思い出を胸に、進学、就職とそれぞれの次のステップに進んでいくことでしよう。

新しい環境や仲間飛び込んでいく時には、誰しもが期待や不安を抱くものです。羽工の伝統でもある挨拶は、自分をアピールできる簡単なしかしとても大切なことです。皆さんの「明るい大きな声で気持ちの良い挨拶」は、第一印象をとっても良いものにしてくれます。人はほんの数秒でその人の印象を決めてしまうと言われています。特に新しく入社してきた人はどんな人だろうと見られています。そこで大きな声で挨拶すれば、きつと悪い印象を持つ人は少ないでしょう。自分に自信がある人も無い人も、元気な挨拶はきつとプラスに働かずです。

コミュニケーションの始まりは、「おはようございます」「こんにちは」「おつかれさまです」この一言です。笑顔で元気よく挨拶することで、相手も自分自身も元気になれます。また、挨拶は尊敬や感謝の表現としても気持ちが伝わります。相手

に認められる最初の一步として、大切にしたいです。先輩や先生方が築きあげた羽工の大きな声での挨拶を宝物として、社会で活躍されることを切に願っています。

最後に、これまで支えていただきました理事・役員の皆様、学校関係者、すべての皆様に感謝申し上げます。



〈一日一善 朝の挨拶運動〉



「言葉で我が身を振り返る」

校長 塩田 憲司

いのか？目標のハードルをもっと上げられるのではないのか？と、これまでの昨日までの自分自身を振り返って疑ってみてほしい。授業の臨み方や資格取得の挑戦でもいい、部活動でもいい、学校や家庭での生活習慣でもいい、スマホとの付き合い方でもいい。きつと課題が見つかるはず。些細なことであってもいい。もし、見つからないようであれば、それはそもそもやる気が無いということだ。...

私は言葉との出会いによって、自分自身を振り返ることがしばしばあります。私が出会った中の好きな言葉の一つに「啐啄同時」(そつたくどうじ)という言葉があります。「啐(そつ)」はヒナが内側から卵をつつくことを、「啄(たく)」は親鳥が外側から卵をつつくことを言います。ヒナは自分のくちばしで少しずつ自分の殻をつついて、時間をかけて卵を割って生まれて来ます。親鳥はヒナのペースに合わせて、外から殻をつついて応援します。両方の行動が一致してヒナが生まれます。こうしたことから

「機を得て、両者に相応じる、得がたい好機」のことを「啐啄同時」と言います。ヒナがまだつつこうとしていないのに、親鳥が先につついて殻を破ってしまつてはヒナは生まれません。早過ぎてもだめ、遅過ぎてもだめ、子供が出ようとしている時期を見計らって親がサポートする。そのタイミングが大事だと言つてます。

子供の教育は、その子供の心身の成長段階に応じて適時適切に行われなくてはなりません、実際には兎角ずれてしまつて、空回りするもどかしさを感じることもしばしばです。私もそんな親の一人です。子供は一人一人違います。その子供のペースに合わせて親も関わる必要があると思います。子供が自分でやろうとしているのを待ちきれず、先回りして親がついつい手助けしてしまうことは避けたいものです。何故なら、そうしていると、子供の自主性や主体性が育たないからです。子供は本来、自分で伸びていく力を持っています。関わり方でその力を伸ばすこともできるし、つぶしてしまふこともあります。焦らずに大らかに子供を見守ることを心に留めておきたいものです。そういう意味では親も子供に育てられているのかもしれない。

さて、ここまで記した文章の「親鳥」や「親」を「教師」に、「ヒナ」や「子供」を「生徒」に置き換えると、「啐啄同時」は、まさに私達教師と生徒の関係にも当てはまるわけです。我々教職員は、今後も単に集団としての在り方だけに目を奪われるのではなく、全体も見ながら、生徒一人ひとりの成長を丁寧支えていきたいと思つております。そのためには、保護者の皆様のご協力とご理解がなくしてやつていけません。子供(生徒)達の成長のために、今後とも学校との二人三脚をお願いいたします。また何かご意見、ご相談がありましたら遠慮なくご連絡をいただきたいと存じます。

最後に、保護者の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

グッドマナーキャンペーン 自転車マナー県下一斉指導

九月十九日(火)から二十二日(金)にかけてグッドマナーキャンペーンが行われました。また、自転車マナー県下一斉指導が二十二日(金)の朝七時五十分より羽咋駅周辺および校門付近の交差点でPTA役員の方々、教職員、生徒会役員が参加して行われました。並列走行や携帯電話を使いながら運転しないように注意を促し、正しい自転車のマナーや横断歩道を渡る際の安全指導が行われました。



〈自転車マナー県下一斉指導〉

羽工祭

秋晴れが心地よい九月三十日(土)に羽工祭の一般公開が行われ、PTAの方々も模範店を出店しました。朝早くからホットドックを作り、コーヒーの準備をして、店頭に並べました。皆さんベテランの方はかなりでとても手際よく美味しいホットドックが出来上がりました。また、豆にこだわったコーヒーも美味しく、ホットドックとともに

すぐに完売となりました。
忙しい日々の中で時間をやりくりし、羽工祭を盛り上げて下さった母親委員会の方々、そしてお父さん方には大変感謝いたしております。ありがとうございました。



〈羽工祭模擬店〉

PTA 研修会に参加して

副会長・母親代表 杉本 由香里

十一月三日(金)に行われた、今回の研修会は、保護者だけでなく生徒や先生方と講演を聞く形での研修会でした。保護者の中には講演を楽しみにして参加してくれた方もいました。

社会人として、就職や進学を控え、学力だけではなく人間関係づくりのためにもコミュニケーション力の大切さや人との上手な付き合い方を学ぶことはとても大切なことだということは、だれもがわかっては

いますが、どうすればいいのか迷うことは大人になってもあることです。今回、クリエィティブブランドの山崎香織先生の講演では、生年月日を基本に三つのタイプに分けた中で、それぞれの特徴や接し方など興味深くお話を聞くことが出来ました。

特に、生徒の皆さんは社会に出て、これまで以上に年齢の差がある方たちと共にコミュニケーションをとって仕事をする場面が多くなるかと思えます。今まで以上にコミュニケーション力の大切さを感じるはずです。自分の考えている以上にいろいろな方が社会にはいること、そしてそういった方たちとも仕事をしていかなければなりません。今回の講演でのお話が少しでも役に立つことを親として期待します。



〈PTA 研修会〉

PTA 研修旅行に参加して

副会長 木内 良純

十一月十八日(土)に日帰りで行われたPTA 研修旅行に参加させていただきました。今回は金沢学院大学と金沢市内での研修でした。

金沢学院大学には羽昨工業高校からも何名も進学しており、今回も学校の説明の際に卒業生の小寺さんが参加して下さいました。小寺さんは弓道部でインカレ(全日本大学選手権大会)において個人準優勝されたとお話をうかがい、卒業生の素晴らしい活躍に感心させられました。また、今回参加された先生方も小寺さんと親しそうにお話をされていて、先生方と生徒の関係が良いことをあらためて感じる事が出来ました。

大学からの説明では、毎年受験生が増えていることや来年度からの新しい学科の説明、大学入学当初からの学生へのやる気を持たせるための取組など、今まで思っていた大学へのイメージ(授業に出席して単位をとるだけ)とは大きく異なり、学生たちへの働きかけや対応がとても丁寧になされているのを感じました。大学の施設見学では、芸術系の施設を見学させて頂きました。とても施設が充実しており、スタジオなど私自身が興味を惹かれる施設もありました。

大学見学の後は、北陸製菓(株)のせんべいの手焼き体験をし、土産のせんべいをた

くさん買い込んでしまいました。
昼食後は忍ヶ寺へ行きました。名前は知っていてもなかなか行く機会のない場所です。今回行った際も、雨にもかかわらずとても沢山の観光客の方がいて、新幹線開業を機に金沢へとても多くの観光客が訪れていることを実感しました。忍ヶ寺の中はとても複雑なつくりで、案内の方の説明を受けながら見学をしました。

今回の研修旅行に参加し、石川県に住んでいながらあまり行く機会がなかった場所を回り、また、参加された保護者の方々や先生方と懇親を深めることができ、さらに家庭では見ることのできない子供の様子を知る機会となり、羽昨工業高校のPTA活動での良い思い出になりました。今回の研修計画を立てて下さった山口副会長に感謝すると共に参加して下さいました保護者の方々や先生方に感謝します。有難うございました。



〈PTA 研修旅行(金沢学院大学)〉

北信越地区高等学校PTA研究大会 富山大会

総務課主任 安達 祥光

去る平成29年7月7日(金)、8日(土)にかけて行われた北信越地区高等学校PTA研究大会において、本校の谷本千春PTA会長が以下の内容で発表を行いました。発表時にはいくつかの質問が寄せられ、平時の活動に関心を持っていただけたと感じました。

学校と連携したPTA活動

～安心・安全な学校づくりを目指して～

石川県立羽咋工業高等学校PTA会長 谷本 千春

1 学校概要

羽咋工業高校は、能登半島の入り口に位置し、近くには、千里浜なぎさドライブウェイがあり、夏には多くの海水浴客も訪れる等、自然に恵まれた環境にあります。

昭和37年に開学し、56年目を迎え、現在は能登地区唯一の工業科専門高校です。電子機械科、電気科、建設造形科が各学年1クラスずつあり、チーム羽工を合言葉にして、先生方と生徒が一体となり保護者も協力しながら、学校をより良くするため様々な活動を行っています。「自律と創造」の建学の精神の下、日々の学習に加え、資格取得、部活動、あいさつ習慣を柱として、生徒は落ち着いた学校生活を送っています。生徒会を中心として、毎朝の一日一善運動も、長年継続されています。

進路状況としては、近年は就職が7～8割、残りが大学、短大、専門学校へ進学しています。就職の8割強が、県内の地元企業で活躍しており、地域の産業や社会を支える人材として活躍しています。

生徒数は少ないながらも、部活動は活気があり、今年度は6月の北信越大会に、剣道、ヨット、ソフトテニス、陸上競技、柔道が出場し、剣道部とヨット部はインターハイへの出場が決まり、中でもヨット部の1組は、世界選手権への出場が決まっています。

2 学校と連携した生徒指導

まず、スマートフォンの安全な利用についてです。能登地区の高P連では、スマートフォンを我慢する運動を各家庭に協力依頼し、9時以降のスマートフォンの利用を控える取組を進めています。

また、県の教育委員会では、ホットネット大作戦と銘打って、詳細なパンフレットを作成・配布し、それを活用した学校での啓発活動を促し、親子で安全なスマートフォンの利用について話し合える環境づくりに努めています。本校では敷地内での使用を禁止する対応を取っており、現状、注意される場面が多少はあるものの、大半の生徒がしっかりと守っていると、先生からは聞いています。

4月の入学式、始業式の翌日に、スマートフォン利用についてのスライドを生徒全員に見せて注意喚起をしてもらっています。そして、同じものを保護者説明会、PTA総会、地区PTA懇談会の際に、保護者の方々にも見ていただきます。学校が子どもに対してどのように指導しているかを具体的に理解し、家庭でも親子でスマートフォンの利用について話し合う、とてもいい機会になっていると思います。スマートフォンの使用については、各家庭で学校と協力してルールづくりを進めています。

次に、自転車等の交通安全についてです。学校は、海に近い高台にあり、特に下校時には自転車は下り坂を通ります。学校の近くには、車道に向かって急坂、自動車の往来の多い国道があったりと、下校時における自転車の運転には特に注意が必要です。近年、数件、自動車との接触事故があり、親としても心配です。交通事故に遭ってしまったときの対応はどうすればいいのか、学校の危険な箇所はどこなのか、実際に近くで交通死亡事故が発生している箇所を、動画で紹介しています。また、自転車マナーの一斉指導や、9月に1週間程度行うグッドマナーキャンペーン等では、保護者や先生方、生徒が実際に危険箇所立って、街頭での安全指導を行っています。

昨年度PTAが独自に自転車の安全に関して取り組んだこととして、自転車通学路における防犯灯設置の陳情があります。本校の多くの生徒が通学路として利用している道路には、街灯がなく、特に夕方、夜間にかけて下校する際に、暗くて非常に危険だからです。

最後に規範意識の醸成についてです。学校では4年前から、月に一度、1週間を規範意識週間として、朝学習の10分間、子どもたちへの放送による読み聞かせ、グループやクラスでの話し合い、発表等を行ってきました。毎月子どもたちに関する事をテーマに設けて、そのテーマに沿って取り組んでいます。PTAもこの取り組みを理解し、家庭での話し合いにつながればと、今年度から、読み聞かせやグループでの話し合い、クラスでの発表を見学させてもらいました。

3 まとめ

本校では、子どもの健全育成に向け様々な取組がなされ、親としても感謝しています。決して学校任せにするのではなく、学校が子どもたちに行っている様々な取組を保護者も理解し子どもの成長を見守っていくという共通意識の下で、今後PTAとしてさらに協力していきたいと思っています。